

【磯子区】令和6年第1回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和6年2月5日 10時00分 ～ 11時 20分
場 所	磯子区役所7階 701、702 会議室
出席者	<p>【座 長】 二井 くみよ 議員</p> <p>【議 員： 3 名】 関 勝則 議員、武田 勝久 議員 太田 正孝 議員</p> <p>【磯子区： 28 名】 関森 雅之 区長、椽木 誠司 副区長、 金指 剛 福祉保健センター長、 粟屋 しらべ 福祉保健センター担当部長、 松本 英之 磯子土木事務所長 大塚 和利 磯子消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	議題1 令和6年度磯子区個性ある区づくり推進費の予算案について
発 言 の 要 旨	<p>議題1 令和6年度磯子区個性ある区づくり推進費の予算案について</p> <p>武田議員：8ページの「自治会町内会振興事業」(1)カ 自治会町内会活動へのボランティア派遣の支援について、洋光台第二中学校以外でボランティア活動に興味を持っている学校はありますか。</p> <p>柿崎地域振興課長：中学生のボランティアに対する講座については、9ページ『区民のちから』発揮・活用事業」(1)活動参加促進事業の中で、研修を行いたいと考えています。また、具体的に挙げられる学校名はありませんが、現在、各学校の校長先生に徐々にお話をしている段階です。</p> <p>武田議員：15 ページ「区の魅力創出・発信事業」(2)磯子区の魅力再発見事業の磯子区の魅力を集めたデジタルマップの作成について</p>

詳細を教えてください。また、このマップをどこから見る
ことができるかについてもお聞きしたい。

並河区政推進課長：マップの具体的な仕様については、現在、検討中です。
マップの閲覧方法については、ホームページに入り口を作る
か、リンクを飛ばすような形にするのかなども含めて、なるべく
使いやすい形で今後の調整を進めます。

武田議員：デジタルマップは区制 100 周年に向けての取組なので、なるべく
多くの方が活用できるような仕組にしてもらいたいと思います。
費用がかかるかもしれませんが、例えば、磯子区の公式
アカウントやアプリの作成等、スマホ世代の方に手に取って
いただけるような作りになると効果的だと思います。ご検討よろ
しくをお願いします。

17 ページ「広報・案内事業」について、現状、磯子区の窓口で
外国語の対応ができる職員は何名ですか。

並河区政推進課長：専属の外国語対応の職員はおりません。例えば、中国
語が少し得意といった職員が磯子区内に何名かはいると思
いますが、固定した数の把握はしていない状況です。

武田議員：中国系の方が区役所に行った際、中国語ができる職員がおらず、
自分たちで通訳できる方を連れて行って、やりとりをしたとい
う話をお伺いしたことがあります。外国人が増えている状況の
中で、今後を見据えて、外国語対応できる職員の配置も大事に
なるかと思い、確認しました。

2 ページ下部の枠囲いについて、【歳出】「2 内容の精査、実
績に基づく見直し：がん検診啓発用物品など」の内容について
お伺いしたい。

川崎福祉保健課長：がん検診事業の見直しについて、今年度までは個人へ
のリーフレット等の配布を中心に啓発を行っていましたが、次
年度以降は区役所のライトアップやポスターの掲示等、多くの

方に働きかけるような啓発方法に見直しします。

武田議員：紙媒体をやめて、違う形で啓発していくということですね。19ページの写真のエレベーターラッピングは目立っていて良いです。区内の様々なところで、こういった啓発の取組を行っていただきたい。例えばスーパーと連携して、のぼりを掲出させてもらう等、人目につく場所や人通りが多い場所で、この様な啓発を進めていくと良いと考えていますので、ご検討をお願いします。

25ページ「子育て応援事業」について、今年度、子育てに関するアンケート調査を実施されていますが、現時点の情報についてお伺いしたい。

坂東子ども家庭支援課長：子育てニーズ調査は、現在、横浜市立大学で詳細な分析を進めているところです。3月末に分析結果が報告されますので、現時点では単純集計の結果についてのみお伝えします。例えば、共働き世帯が増えている中で、週末のお出かけのニーズが高いと予想し、実際、お子さんと出かける曜日と時間帯は、土日の午前中の割合が高い結果となりました。地域子育て拠点を更に利用していただくためには、平日よりも土日の方が有効であることを改めて確認できました。また、出かける場所を選ぶ際に重要な点については、自宅から近い、行きやすい場所が最多となりました。自宅から近いだけでなく、身近で日頃から子育て世帯がよく出かける場所で、講座やイベントなどを開催し、そこから地域子育て拠点「いそピヨ」などに誘導していくような取組の検討が必要ではないかと考えています。さらに、子育て情報の収集方法については、インターネット検索の次に親族や友人の割合が高い結果となりました。このことから、先輩パパ・ママからのお話といった人づての情報も軽視できないと感じています。引き続き、親の孤独感、育児ストレスとの関連等についても詳細に分析を進めてまいります。

武田議員：正式な分析報告結果から、色々と検討していただきたいと思
います。29 ページ「多文化共生推進事業」について、多文化共生
ラウンジがオープンしておよそ1年経過しましたが、これまで
に出てきた課題について教えていただきたい。

柿崎地域振興課長：令和5年2月の多文化共生ラウンジのオープン以来、
利用者は着実に増えてはいますが、隣接区のラウンジと比較す
ると外国人の利用割合は低い状況です。日本人が外国人を連れ
てご相談にいらっしゃることが多いため、外国の方への広報
を、より強化していく必要があると感じています。

武田議員：外国の方には周知されていない部分もあるかもしれませんが、
そういった意味で、(2)アウトリーチの取組により、つながり
を持っていくことが非常に重要だと思います。

現在、市で先行して取り組んでいる5区については、専属のスタ
ッフが配置されています。一方で、磯子区は近年、外国人が
急増しているにも関わらず、専属スタッフが配置されていま
せん。磯子区への配置を国際局に働きかけていますが、こうい
った取組は数値化・見える化できない等の問題もあり、国際局
では、磯子区についても同様に進めたいが予算がつきづらいとい
うジレンマを抱えているようです。現在先行して取り組んでい
る5区は成果が出ているようです。磯子区としても成果を形に
できるように取組を進めていただき、私も専属のスタッフが配
置されるように引き続き働きかけを行っていきたいと思いま
す。31 ページ「地域と一緒に作る防災・減災事業」(2)地域
の自助・共助啓発事業について、先ほどご説明いただきました
防災啓発動画を学校で活用する際の具体的なカリキュラムや
取組方法について教えていただきたい。

角田総務課長：中学生向け防災啓発動画は昨年末に完成しました。出来上
がったことで満足せず、これからまさに活用していくところ
です。学校に向けて、まずは校長会等でご説明しますが、その他
にも、区役所防災担当が直接学校に足を運んでお話をしつつ動

画を流す等、少しでも多くの方に見ていただけるように取り組んでいきます。お昼の時間帯に1週間流してみようというお話をいただいている学校もありますが、学校によって使っただけの時間帯も異なりますので、ご提案をいただきながら、具体的に進めていきます。まずは、中学生に動画を見ていただいて、意識づけにつながっていけばと思っております。

武田議員：防災啓発動画の中で、防災拠点で中学生が声掛け・コミュニケーションを取っていきこうという場面がありました。先ほどお話がありましたボランティアも地域の中学生在対象となっている等、中学生にも地域の方とコミュニケーションを取る役割が期待されていると思います。大事なことですので、是非進めていただきたいと思います。

感震ブレーカーについて、市の補助対象を地域全体に拡大することになりました。それを踏まえて、その後、磯子区が取組として何か変更があれば教えてください。

角田総務課長：以前ご説明させていただいたところから、大きな変更はございません。区連会等でご説明をした際、家全体の電源が落ちる感震ブレーカーは一気に暗くなってしまうと怖い、自宅の状況によって型が違うため機種を選定が難しい等のお話もいただいています。対象地域が市全域に広がること自体はよいことですのでもちろん一緒に取り組んでいくのですが、区としては来年度、コンセントタイプの感震ブレーカーという、特定のコンセントに直接差し込むことで、揺れを感知した際、通電火災を防ぐためにそのコンセントの電源を遮断するというものを、お配りしようと考えています。こちらを、例えば民生委員さんの定期訪問、消防署と一緒に消防訪問等の場を活用し、対象地域の一人暮らしの高齢者のご自宅、特に取り付けた方がいいと思う方のお宅にピンポイントで直接啓発するとともに物をお配りして、具体的な実行性につなげていきます。安心して暮らしていただけるような形を少しでも作っていければと思っておりますので、市の施策と同時で取組を進めていこうと

考えております。

関議員： 8 ページ「自治会町内会振興事業」(1)カ 自治会町内会活動へのボランティア派遣の支援について、ターゲットは、洋光台第二中学校に特化した取組かをお伺いしたい。

柿崎地域振興課長：ボランティア派遣の支援のターゲットは大学生で、具体的には横浜市立大学とお話をさせていただいています。自治会町内会からのボランティア派遣のリクエストを取りまとめて大学へ提出し、そこで手をあげていただいた大学生に参加していただきます。その派遣を区役所が仲立ちするイメージです。

関議員： 大学生をターゲットにした、大学生のボランティア派遣ですね。9 ページ「『区民のちから』発揮・活用事業」(1)活動参加促進事業の担い手育成講座の内容についてお伺いしたい。

柿崎地域振興課長：ボランティア部がある中学に対してはボランティア部、そうでないところはボランティアに参加する中学生に対する入門講座を行います。また、地域活動に参加意欲のある一般の方を対象とした地域デビュー講座についてはこれまでも実施しております。引き続き、そのような講座を行っていく予定です。

関議員： 中学生を対象とする講座が新たに加わるということですね。大人から子どもへの講座も良いが、体験をした子どもが講師になって、子どもに伝える場面を作っていただきたい。

商店街振興に関連して、プレミアム商品券には 12 月に 1 億 9,900 万円の追加補正がされて、令和 5 年度は 4 億 6,000 万円という非常に大きな商店街振興予算がつけました。当然、プレミアム商品券は継続すると思います。地域からは、大変人気と聞いており、商店街は非常に助かっていますし、物価高騰対策として市民生活の一助となっていると感じています。そこで、

日頃、地域とつながりにくい層の方が、何かの用事で区役所にいらっしゃったときに、自分の住んでいる商店街がプレミアム商品券を発行していることがわかるような広報を行っているのかお伺いしたい。

柿崎地域振興課長：プレミアム商品券の発行の際は、主に広報よこはまのコラムへの掲載や、ホームページでの告知を行っています。

関議員： 広報よこはまから様々な横浜の情報を取得している方もいらっしゃいますが、意外と広報よこはまを見ない方も多いです。市民、区民の方たちが、何かの用事で区役所に訪ねてきた際の広報にも力を入れていただくと、商店街に目を向けるきっかけになるためご検討いただきたい。

16 ページ「まちの美化推進事業」の「ヨコハマ プラ 5.3 計画」について、私も横浜G30プラン、ヨコハマ3R夢プランと、地域の一員として応援隊に入っておりますが、新計画開始に伴い新たな組織ができるのか、既存のヨコハマ3R夢プランの組織から変更するのかについてお伺いしたい。

岡資源化推進担当課長：基本的な周知の仕方については変更ありません。既存計画との違いは、今までの容器包装プラだけでなく、プラスチック製品そのものの分別を加えることで、脱炭素化に向けての推進を進めていく点です。

関議員： 今まで横浜G30プランからヨコハマ3R夢プランと継続して地域で活躍された方々は、この「ヨコハマ プラ 5.3 計画」も恐らく、引き続き、意識高く地域において普及啓発活動を行うと思いますので、磯子事務所と連携しながら、同じようなスキームで活動していくのかお伺いしたい。

岡資源化推進担当課長：周知については、新たな分別のルールと併せて、計画の理念や目標、ご家庭で実践していただきたい取組についても、区民の皆様に丁寧にお伝えしていこうと思っています。

なお、磯子区については、地域からのご要望に応じて、現在も説明会等をお受けしていますが、令和6年10月からのプラスチックゴミの分別リサイクルの拡大については、4月から半年間かけて、町内会、住民説明会、イベントやキャンペーンなどの対面による丁寧な説明とともに、デジタル社会に対応した動画やSNS等を活用した広報にも取り組んでまいります。また、分別の方法を記載したパンフレットについては、ゴミと資源の分け方・出し方を9月に全戸配布する予定です。

関議員： これまでも地域で啓発活動を担ってきた意識の高い方がたくさんいらっしゃるので、ぜひその様な方々にも引き続き活動に加わっていただきながら、事業を進めていただきたい。
20 ページ「高齢者みんなで支えるまちづくり事業」(3)一人暮らし高齢者等への相談窓口啓発の具体的な内容を教えて下さい。

柴田高齢・障害支援課長： 既存の75歳以上の一人暮らし高齢者の方への見守り事業では、訪問を希望されなかった方に対する区役所からのアプローチは特にありませんでした。このため、新規事業の一人暮らし高齢者等への相談窓口啓発では、まずは、これまでアプローチしてこなかった方に対して啓発を行います。令和6年度については、過去に訪問を希望されなかった方を含め、これまで見守り事業で対象にしてきた方のアフターフォローとなるよう、78歳以上の方へのアプローチを検討しています。相談窓口の啓発はリーフレットの配布等、様々な取組が既ありますが、磯子区独自の取組として、ケアプラザの一覧をお知らせするのではなく、対象者の地域のケアプラザを特定してお知らせする予定です。さらに、お知らせに使用する物品についても、マグネットやシール等の目につく場所に置いていただけるような工夫をして、一人暮らしの高齢者の方に届けたいと考えています。

関議員： 磯子区が作っているエンディングノートを町内会で紹介した際、みんな元気なので、大変話しづらかったことを覚えています。しかし、いずれ必要な時が訪れるので、元気な今だからこそ終活に向かって考えられるということ、アプローチした方がいいと思います。せっかく区役所からアプローチする良い機会なので、エンディングノートについても盛り込むことはできないかお伺いしたい。

柴田高齢・障害支援課長：啓発物品を作成する際は、たくさんの情報を知っていただきたいという思いもありますが、情報量が多いものは、目を通さずに捨てられてしまう懸念もあります。情報量をどこまで載せるかは検討中ですが、今回の趣旨は、保存していただき、必要になったときにそれを見て、自分が相談する窓口がわかることと考えています。

関議員： 避けては通れないテーマだと思いますので、ぜひそういった対応をしていただきたいと思います。

29 ページ「多文化共生推進事業」の多文化共生ラウンジについて、磯子区では、外国籍の方がかなり増加しているというご報告をいただきます。私の友人の会社もベトナムから外国籍の職人さんを紹介していただいて人手不足に対応しています。長く日本に滞在すると日本に愛着が湧くので日本に住みたい、ただベトナムで結婚しているので、いずれは夫婦で横浜で暮らしたいと相談を受けました。事業所の方も色々方法を考えましたがハードルが高い状況です。そこで、多文化共生ラウンジがそういった悩みを抱えている外国籍の方に、磯子区で開催している行政書士相談を案内する等、専門的なアドバイスができたらと思いました。現在、そのような相談の対応事例がありましたら、ぜひご紹介いただきたい。

柿崎地域振興課長：多文化共生ラウンジには、一般的な内容から専門性の高い内容まで、さまざまなご相談があります。専門的な内容のご相談には、専門機関の方とのやりとりの通訳や、寄り添って

お話をお伺いする等の対応をしています。専門的なご相談で、特に行政書士に相談した方が良い案件があるとラウンジから共有された際は、行政書士におつなぎして、区役所での相談の時に同行する等、案件に応じて対応してまいります。

関議員： 先ほどの事業者や同じ悩みを抱えた方にも、そういった相談もラウンジで対応していただけることを伝えたいと思います。
33 ページ「地域防災力向上事業」について、市合計 2 億 6,232 万 1 千円で、この下の 2 つを足しても 8,000 万円です。この見方について教えてください。

角田総務課長：「地域防災力向上事業」については、各区単位の予算額が明示されていませんので、総務局の総事業費を載せています。「家具転倒防止対策助成事業」、「災害時医療体制整備事業」は、「地域防災力向上事業」とは別の事業ですので、掲載している事業を足しても総務局の総事業費とイコールにはなりません。この資料では関連するものだけを抜粋して載せています。

関議員： 例えば、家具転倒防止対策助成事業 1,200 万円と記載されていますが、これを 18 区で割るということですか。

角田総務課長：はい、均等に 18 区に配分されるかは別ですが、総額で 18 区分です。

関議員： 新型コロナウイルス感染症対策初期、予算残を活用して防災関連商品等を購入しても良いという取組があり、とても良かったです。その取組の現状について教えていただきたい。

角田総務課長：地域でご購入いただく場合には、33 ページ「地域防災力向上事業」(2)「町の防災組織」活動費補助金を活用されていると思います。

太田議員： 2 ページ「予算案概要」(1)個性ある区づくり推進費について、

自主企画事業費は1億円と聞いていましたが、今回9千万円程度です。予算は磯子区が要求するものなのか、市民局に配分されるものなのかを教えてください。

角田総務課長：現在、18区で18億円という計算になっています。平成6年度に導入した当初は、1区1億円と聞いています。ただ、各区、人口の規模や構成も異なるので、区の特성에応じた取組や、さまざまな要素を反映し、平成17年度から、区によって配分額に差が生じたと聞いています。現在も18区で18億円は確保されていますが、区の規模等に合わせて、金額の枠組みが、ある程度示されるものになっております。

太田議員：極力1億円いただきたい。市議会の問題でもあるので、意見はしていきたいと思います。

11 ページ「環境行動推進事業」(2)磯子のまち花いっぱい事業ア(ア)区民向けに花の種・球根の配布について、脱炭素という観点から見て、一過性ではない樹木の配布の方が良いと思います。例えば、緑の協会や日本花の会で桜の木や金木犀を配布しています。脱炭素という観点では、1年で終わる花の種を配布するのはどうかと思います。球根も、概ね1年で終わってしまいます。例えばチューリップも2年目はほとんど花が咲かず、芽が出てきたとしても花が咲きません。そのため、同じ球根を配布するにしても、毎年花が咲くようなフリーズ等の脱炭素の趣旨に合うものを選んでいただきたい。

また、29 ページ「多文化共生推進事業」について、外国人を講師として料理教室を開催している地区センターがあるようですが、磯子区が関係しているのかお伺いしたい。

多文化共生するためには、その文化に影響を受ける必要があるため、催し物がたくさんあった方が良いと思います。外国人との共同生活、又は料理を作る中での多文化共生について考えた方が良いと思いますが、それについてご意見をお伺いしたい。

並河区政推進課長：樹木の配布については、環境創造局と区が連携して人

生記念樹の配布を行っています。昨年度磯子区では、区の木である梅の苗木を含めて、300本程度、区民に配布していますので、継続して取り組んでまいります。また、球根も管理によって2年、3年と花を咲かせるという手法もあると思いますし、長くもつ品種を選ぶことも一工夫としてできると思いますので、脱炭素に資する形で今後も取組を継続してまいります。

柿崎地域振興課長：地区センターで開催されている料理教室については、地区センターの指定管理者や、料理教室の利用者で行っているものです。多文化共生ラウンジの中に調理ができる設備はありませんので料理教室は行っていませんが、各国をテーマにしたお茶会は開催しています。日本人と外国人の交流で「食」は、万国共通のテーマでもありますので、今後、ラウンジ以外の施設での料理教室の開催については検討してまいります。

太田議員：毎年のように、公費で植物の配布をやるからには、長く保つ樹木を配布してください。公費で脱炭素の取組として、一過性で終わってしまうものはだめだと思います。再度検討してください。

地震対策について、今回の能登半島地震で倒壊している家は古い家が多いです。阪神・淡路大震災時も古い家が倒壊しました。磯子区の広地にも、関東大震災直後に建てられた古い家がたくさんあります。そこで、家具転倒防止対策助成事業について、金具を配布する程度で良いのかが疑問です。区づくり推進費で実現可能かは別として、古い建物の柱と柱を絡めてジョイントする等の対策をしないと、震災時にはたくさんの古い家が倒壊すると思います。家具の転倒防止の前に、家の倒壊防止についても考えたい。

先ほどお伝えした通り、磯子区の自主企画事業費が1億円ないのは残念だと思っています。家の倒壊防止対策を区づくり推進費で実施してほしいとまでは言わないが、区づくり推進費が1億円配布されていれば、家屋倒壊防止の調査費として500万円計上してもよかったと思います。

最近、地震が頻発していますが、磯子区の場合は古い家が多いので、家屋倒壊防止対策について区長の考えをお伺いしたい。

関森区長：貴重なご意見ありがとうございます。金具の話含めて、大変勉強させていただきました。磯子区もかなり古い家が多々ありますので、そういった意味で、去年から議論をしている取組をお話しさせていただきます。例としては、感震ブレーカーの設置促進です。市全体で実施している感震ブレーカー設置助成事業に加えて、感震ブレーカーを設置することで発災時にブレーカーが落ち、家の電気が全て消えるのは困るというご意見を受けて、磯子区独自で、通電火災の原因となる電気ストーブ等のコンセントに設置するコンセントタイプの感震ブレーカーで、そのコンセントを使用している家電のみ電源が落ちるといった仕様のを配布する等の工夫をしています。家屋の倒壊防止対策を区づくり推進費で実施することはありませんが、家具転倒防止のみならず、耐震、各ご家庭でできる範囲で支援できることは是非検討させていただきたいと思います。

太田議員：洋光台で市営住宅建て替えをしていますが、安普請で粗悪な建材を使用している。磯子区民の幸せを考えて、磯子区として、そのようなところにも意見していただく等の配慮をしていただきたい。

町内会の加入にご尽力いただいていると思いますが、町内会費が高くて加入できない方、生活保護を受けている方等、様々な事情がある方がいるので、そのような方がたくさんいらっしゃるわけではないが、前回から引き続き、町内会の会費が高くて払えない方について意見したい。また、今一番高い町内会費の料金についても教えていただきたい。

柿崎地域振興課長：個々の町内会の会費について、把握はしておりません。ただ、何名かの会長さんとお話しする中で、特別な事情がある場合は、減免する場合もあるとお伺いしました。減免希望者が多数いらっしゃると町内会としても困るので公にはしていま

せんが、会長にお話ししていただければ、相談には乗っていただける場合もあるそうです。

太田議員：相談いただければお話は聞くとのことですが、お金のことで、相談しづらい部分もあると思います。もちろん町内会の自治なので、難しい部分もありますが、そのような状況については引き続きご指導ください。月1回程度開催しているコスモスショップについて、常設しているところはあるかお伺いしたい。

柴田高齢・障害支援課長：1階「カフェ ル・シエール」という喫茶店のレジの近くで、コスモスショップで扱っている商品を常時展示・販売しています。

太田議員：常設店があることで作業所の方々がいきいきと活動していただけるよう、よろしく願います。

前にも申し上げました高齢者のためのベンチについて、バス停にベンチ作ってほしいという要望が多数ありますが、場所の選定等、設置が難しい状況です。高齢者は外出した方が良いと言われる一方、休憩できるようなベンチがないと外出しづらくなってしまいます。ベンチの設置について、何か考えていただきたい。

柴田高齢・障害支援課長：横浜市で実施しているベンチの設置に関する事業が複数ありますので、具体的な地域の声をお伺いし、着実に既存事業につなげていきたいと考えています。引き続き、高齢者の外出を支援していけるよう、区として取り組んでまいります。

太田議員：私が市の方でもお伝えしてきたことが関係しているかもしれませんが、寄付された人のネームプレートを付けたベンチを作るようになりました。市の事業においても、財政難の状況もあるため、市民から寄付していただき、寄付者の名前等を付けたベ

ンチを設置する等、高齢者の健康増進等に資する取組を行って
いただきたい。

中学生の進学支援に関して、給食費の支援の有無についてもお
伺いしたい。

村山生活支援課長：給食費について、生活保護の方については、教育扶助
という形で支給されています。

太田議員：今のところ給食費等の問題はないということですね。貧乏はつ
らいので、引き続きお願いします。

15 ページ「区の魅力創出・発信事業」の堀割川の親水性につい
て、堀割川にも根岸橋には休憩や釣りができるようなスペース
がありますが、大岡川のように、堀割川にもあちこちで釣りが
できるような川に親しむ場所が作れないかお伺いしたい。

並河区政推進課長：堀割川の親水性について、一昨年、神奈川県で堀割川
いそご栈橋を供用開始しました。保育園の子どもたちのお散歩
コースにもなっており、川に親しむ光景が見られます。また、
その側の道路を広場状にして、今年中にオープンする予定で
るので、そういったところで楽しんでいただけるようなスペース
があります。周辺の道路の形状との関係で、連続性を持って整
備するのは、現状では難しい部分もあると思います。

太田議員：川に張り出してもいいと思います。以前は、船と荷物の運行が
たくさんあり、荷物の上げ下ろしのための場所がありました
が、全て潰されてしまいました。うまく利用していただければ、
皆さん楽しめると思うので、よろしく願いいたします。

二井議員：13 ページ「商店街にぎわいづくり事業」(2)商店街魅力発信イ
ベントの実施の磯子区商店街宝くじの費用について、区づくり
推進事業として何年も継続してされているため、とても良い事
業だと思います。そこで、商店街宝くじの令和5年度の実績や、
利用者数についてお伺いしたい。

柿崎地域振興課長：商店街連合会を中心として10月7日から11月5日までの間、500円以上のお買い上げ1回につき、宝くじを1枚配布するという形で実施しました。今回は11の商店街から57店舗が参加し、配布枚数は2万8,878枚でした。令和4年度は、金額に関係なく、お買い上げ1回につき1枚差し上げていたので、3万枚を少し上回っていました。配布枚数は昨年度比減少ですが、配布条件を変更してことが影響していると思われます。

二井議員：プレミアム商品券は非常に効果が高いと思います。商店街宝くじも商店街の活性化につながる取組だと思いますので、ぜひ翌年度も、プレミアム商品券に並ぶくらいの取組をしていただきたい。

34ページ「災害時要援護者支援事業」の個別避難計画の作成について、令和7年度末までの作成が努力義務となっています。そこで、現状の磯子区全体の人数の推移と、そこに占める要援護者の人数、計画作成の進捗と作成に当たっての課題があれば教えていただきたい。

柴田高齢・障害支援課長：横浜市では国の取組指針に従い、横浜市における計画作成の優先度が高いものとして、洪水浸水想定区域にお住まいの方を対象として計画を作成しています。現在、モデル事業は鶴見区・港北区など5区で取り組んでおり磯子区が対象ではないため、現時点で個別避難計画の作成には着手しておりません。磯子区としても、努力義務となっている令和7年度末までの作成に向けて個別避難計画の作成が円滑に進むよう、令和6年度は、モデル事業の検証と準備を進める調整をしています。その中で、現在、磯子区の洪水浸水想定区域にお住まいの方で、優先度の高い方の対象人数を把握していきたいと局に働きかけています。

二井議員：対象地域にお住まいの方の数の把握は今から行うということで

よろしいですか。

柴田高齢・障害支援課長：私の方では現在は把握しておりません。

二井議員：令和7年度末の期限まで時間がないと思いますので、令和6年度は確実に進めていただきたい。

区提案反映制度についてお伺いします。先日、各区の区提案反映制度を拝見したところ、磯子区は1件で旭区は12件等、区により件数が相当異なっていると感じました。磯子区は区提案反映制度をどのように考えていて、区ごとの差についてはどのように考えているのかお伺いしたい。

並河区政推進課長：区提案反映制度は、制度上、大きく3つの目的があります。1つ目が地域の課題・要望に対する区局間の情報の共有化、2つ目が区局間の積極的な調整、3つ目が区局の連携による課題の解決を目指す、というものです。磯子区においては、2つ目の積極的な調整を、区提案反映制度の提出の前の段階で丁寧に行うことで、区提案制度に依らずとも解決の道筋が立つものについては、スピード感も含めてその制度外での運用としています。結果的に、提案に至らないものも出てきている状況です。引き続き、区提案制度に乗せるものと、事務レベルで地道に解決していくものを振り分けながら、効率的に運用してまいります。

二井議員：区提案制度に乗せているものは、区の事務レベルで解決できない案件ということだと思います。国際交流ラウンジについては、私も一緒に頑張ってまいりますので、要望が反映されるように取り組んでいただければと思います

太田議員：宝くじについて、金額が正確ではないかもしれませんが、横浜市の宝くじ協会に対する負担は7,000万円前後ですが、収入は100億円程度だそうです。そこで、国の認可はもちろん必要だと思いますが、区づくり推進費を使って磯子区振興宝くじを作

	<p>り、その果実を磯子区の振興のために使いたい。磯子区として宝くじを実施することの可否も含め、研究していただきたい。</p> <p>関森区長：総務省の宝くじは、各自治体、公共団体として許可されています。正確な根拠は手元にはありませんが、行政区という単位で宝くじを実施するのは、かなりハードルが高いと思います。磯子区振興に係る資金確保という点では、クラウドファンディング等、様々な考え方ができると思います。</p> <p>太田議員：プレミアム付き商品券ができるのであれば、磯子区宝くじも実現できると思います。宝くじにこだわらず、様々な財源確保の方法を考えたらいいかもかもしれません。</p> <p>関議員： GREEN×EXPO 2027 について、令和6年度は18区で各区300万円程度配付されると思います。区長からも各所で GREEN×EXPO 2027 の話をしていただきありがとうございます。いよいよ次のステップに向かう中で、ぜひ令和6年度の区長の意気込みをお聞きしたい。</p> <p>関森区長：昨年度から、特に磯子区生誕100年であることを併せてご説明していくことによって、磯子区の区民の皆様にとって、遠い話ではないことをお伝えし、皆様もそのように考えていただいていると思います。私どもの考えとしては、まずは磯子まつり振興委員会を拡充し、100周年を見据えた組織を作ることから進めていきたいと思っています。個別に予算を組んではいませんが、商店街や、各プロスポーツクラブ、小学校会や中学校会等とタイアップして、皆さんが主役になるような具体的ビジョンを出していきたいと思っています。3月の委員会で、ぜひ皆さまからもご意見賜われればと思いますので、よろしく願います。</p>
備 考	